

製品名: WT1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82452**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA,FC
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	49.2kDa

抗原情報

遺伝子名	WT1
別名	GUD; AWT1; WAGR; WT33; NPHS4; WIT-2
遺伝子 ID	7490.0
SwissProt ID	P19544
免疫原	大腸菌で発現したヒト WT1 (AA: 1-181) の精製された組み換え断片。

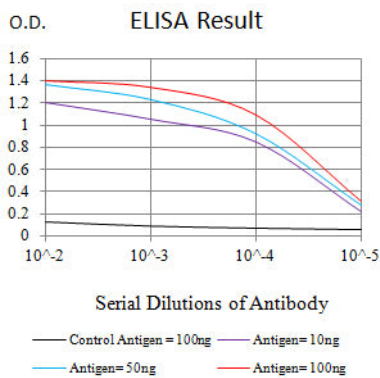
背景

この遺伝子は、C末端に4つのジンクフィンガーモチーフ、N末端にプロリン / グルタミンに富む DNA 結合ドメインを持つ転写因子をコードしています。泌尿生殖器系の正常な発達に不可欠な役割を果たしており、ウィルムス腫瘍患者のごく一部で変異が認められ

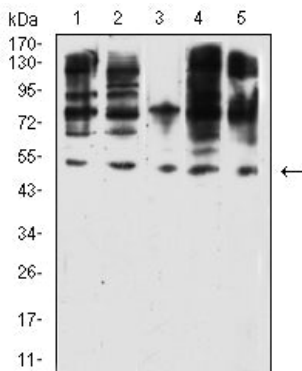
ます。この遺伝子は、複雑な組織特異的かつ多型のインプリンティングパターンを示し、異なる組織において母系および父系の対立遺伝子から両対立遺伝子および一対立遺伝子発現が見られます。複数の転写バリエーションが報告されています。いくつかのバリエーションでは、最初の AUG の上流でインフレームの非 AUG (CUG) 翻訳開始コドンが使用されていることが示唆されています。PMID:7926762 の著者らは、WT1 mRNA がヒトおよびラットにおいて RNA 編集を受け、このプロセスが組織特異的かつ発達の制御されているという証拠も示しています。

研究分野

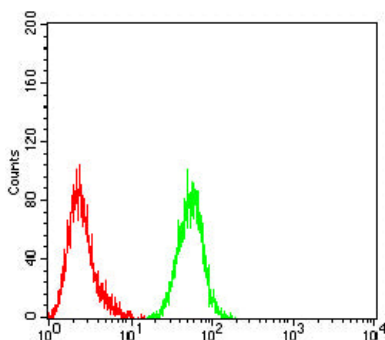
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) 紫線: 抗原 (10 ng) 青線: 抗原 (50 ng) 赤線: 抗原 (100 ng)



K562 (1)、COS7 (2)、SK-OV-3 (3)、Hela (4)、および PC-3 (5) 細胞溶解物に対する WT1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット解析。



WT1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。